

みんなに好きになってほしい本を、令和4年(2022)年1月～令和6年(2024)年12月発行の本の中から
選んでみました。手にとってページをめくってみてください。本は、市内各図書館で貸出ししています。

未就学児：5～6歳



「アドニスの声が聞こえる」 フィル・アール／作 杉田 七重／訳 小学館
第二次世界大戦下、イギリス。父が出征して祖母の手に負えなくなったジョーゼフは、ミセスFに預けられることとなります。彼女は兄から受け継いだ動物園を管理していました。空襲の最中、ミセスFがゴリラのアドニスにライフルを向けているところを目撃します。なぜ大切にして
いる動物を殺そうとしたのか、その時のジョーゼフには分かりませんでした。しかし、ミセスF
やアドニスも自分と同じように怒りを隠したまま心を閉ざしていることに気づいていき、次第に
心を通わせていきます。
戦火も激しくなっていく中、ジョーゼフはアドニスを守れるのでしょうか。



「6days 遭難者たち」 安田 夏菜／著 講談社
標高千七百十二メートルの山と聞いて高いと思いますか？ 低いと思いますか？ どのくらい
の装備で行くのがよいのでしょうか？ 日帰りできると言われると簡単に登れそうに感じます。
この物語の女子高生3人も気楽に考えて軽装備（しかも1人は半袖！）で山に向かいました。簡
単に頂上に着いたために計画を変更して寄り道をすることにしたのですが、道に迷ってしまい、こ
こから6日間も遭難する羽目になってしまいました。
彼女たちの想像を絶する6日間を、一緒に体験してみませんか？



「14歳のヒロシマ」 梶本 淑子／著 河出書房新社
被爆体験証言者の梶本淑子さんは、80年前の8月6日に学徒動員されていた広島市西区の工
場で被爆しました。あの日、14歳だった梶本さんが何を体験し、どう感じたかが分かりやすい
言葉で書かれています。被爆体験のほか、原爆投下前の日々の生活や家族のこと、戦後どうやっ
て生き抜いてきたか、そして70歳から始めた証言活動のことなど、一人の女性が懸命に歩ん
できた人生を追体験できる一冊です。
最後の「おわりに」の中で、梶本さんから未来ある皆さんへの思いが語られています。ぜひ『平
和のバトン』を次の世代へと受け継いでいって欲しいと願います。



「杉森くんを殺すには」 長谷川 まりる／作 おさつ／装画・挿絵 くもん出版
—なので、杉森くんはわたしに殺されても仕方ない。
高校1年生のヒロは杉森くんを殺すことを決意し、義兄のミトさんに報告しました。ミトさん
は止めない代わりにアドバイスをくれます。それは、やりのこしたことをやること。そして、杉
森くんを殺さなきゃいけない理由をまとめておくことでした。その言葉に納得したヒロは、杉森
くんとのことを思い返しなが、やりのこしたことリストを消化していきます。
自分や親しい人たちの心の問題にどう関わっていけばよいのか。杉森くんと向き合うことをや
めてしまったことで罪悪感を抱えたヒロが、悩みながらも前へ進む物語です。



「Milkyway」 堀米 薫／作 新日本出版社
シングルマザーの母と2人暮らしの夢生（むう）は高校進学を控える女子中学生。母に負担を
かけたくない気持ちと動物が好きという事もあり、農業高校に進みます。
そして、その高校で出合ったのが「牛部」。初めて目にした実物の牛に、夢生は圧倒されつつ
も、牛が放つ温かさに愛着を感じていきます。
牛部の活動を通して飼育だけでなく、日本の酪農業の厳しい現実も知ります。また、「うちら、
ファッションより牛ですから～」と思いつつも、恋や将来に悩み、涙することも。
それでも未来に向かってひたむきにがんばる夢生にエールを送りたくくなります。



「いちごハウスのおくりもの」 村中 李衣／作 えがしら みちこ／絵 世界文化ブックス
あまずっぱいするが、じゅわっとひろがる、じいじのつくるいちご。ひまりは、じまんのいちごハ
ウスで、おてつだいをしています。おともだちのかほちゃんにも、いちごのかわいいはなをみせてあ
げようとした。ところが、ハウスのなかでミツバチがあばれて、かほちゃんはかえってしまいま
した。かなしくなったひまりは、じいじにひどいことをいってしまいます。でもあるひ、ばあばから、
いちごのとおきのおきのひみつをききます。さわるとくすぐったいひみつですよ。



「かえるのほんや」 やぎ たみこ／作・絵 PHP研究所
「ほんが あるって すばらしい」まちのはずれに、ふるいほんやがあります。そして、そのおく
の、もりのいけのほとりに、かえるのほんやがあります。かえるににんきのほんやでは、おはなしか
いや、ほんのはんばい、ほんづくりもしています。いまは、あたらしいほんのせいさくちゅうです。
さっかのかえるは、ほんのアイデアをかんがえています。どんなほんが、できるかな？ ほんのさい
ごにある、かえる文字のひょうで、かえるのほんになんてかいてあるかみてみてね。



「ちびミズクのこわーいいちにち」 ペトル・ホラチェック／さく いわじょう よしひと／やく BL出版
ミミズクはよるとどぶため、あかるいあいだにねむります。あるひのよあけちかく、「もうミミ
ズクはねむるじかんよ」とママがいました。しりたがりのちびミミズクはねむくありません。
そーっとすあなをぬけだし、たんけんにしゅっぱつしました。あかるいじかんは、よるにくらべて
いるがいっぱいでたのしいのです。つかれてひとやすみしていると、ちかくでものおとが…。
ちびミミズクといっしょにドキドキのたんけんをしてみませんか？



「パンツをはいたクマ」 ジョリ・ジョン／文 エリン・クラーン／絵 鈴木 沙織／訳 化学同人
おでかけのじゅんぴはばんたん！ のはずなのに、なぜだろう？ なにかがいつもとちがうみ
たい。もりのおともだちのはんのうもよそよそしくて、こころのなかはもやもやでいっぱいです。
そこでジェフは、だいしんゆうのアンダースにそうだんにいきました。
アンダースは、いいにくいことをしょうじきにおしえてくれました。さらにあたまをつかって、
ジェフのピンチをさっそうとすくってくれます。
みんなもアンダースみたいに、だれかのたよれるそんざいになれたらとってもステキだよね！



「ビビさんとゾウ」 レザ・ダルバンド／さく せな あいこ／やく 評論社
ビビさんのペットは、おおきなゾウさん。まいにちいっしょにおさんぽ。ところが、ま
ちのおとなたちは、ゾウがきらい。おおきすぎるし、めだちすぎるし、じゃまだもの。
しちょうさんはきめてしまった。あさになったら、ゾウはどうぶつえんにつれていくと。
すると、つぎのあさ、おおきなゾウもビビさんもいなくなっていて…。
みんながしあわせにくらすために、どうしたらいいの？ ビビさんたちがいなくなって、
おとなたちはきづくのです。

詳しくは、呉市中央図書館まで

住所：〒737-0051 呉市中央3丁目10番3号
電話：0823-21-3014

読書感想文を募集しています。

応募資格：呉市内に居住または呉市内の小中学校に通学する児童生徒
対象図書：このブックリストに紹介している本
募集期間：令和7年7月1日から令和7年10月10日まで
応募方法：1人2点まで可。呉市内の図書館に、お届けください。持参または郵送（当日消印有効）など

前期：小学1年生～小学4年生

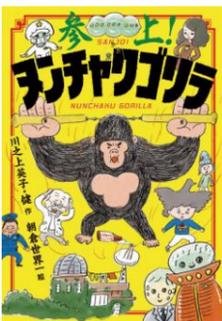


「いちかちゃん」 イトウ ミク／作 中田 いくみ／絵 くもん出版

たくちゃんといちかちゃんは小学2年生。同い年のいこです。いちかちゃんはいつもぼーっとして、よくわすれものもするし、お友だちともあんまりあそびません。そんなだから学校の先生に、よくちゅういされます。でも、いちかちゃんは、ちっとも気にしていません。たくちゃんはそんないちかちゃんのことをさいきょうだと思っています。

「…もしかしたら いちかちゃんも いつもそうなのかな？」あるできごとから、たくちゃんは、いちかちゃんとじぶんをかさねて考えます。

みんなちがっていいんだよと教えてくれる本です。



「参上！モンチャクゴリラ」 川之上 英子／作 川之上 健／作 朝倉 世界一／絵 岩崎書店

「ニンゲンをぜんぶゴリラにしちゃってくらさい」宇宙のどこかでそんな計画が！？

人間が進化するにつれ、美しかった地球を壊していると考えた宇宙保安隊ニオルニオルズ隊長。人間を地球に害のないやさしいゴリラにするバナナを開発してゴリラにしてみようという計画します。そのことを知ったようじろうはお父さんと科学者の宇宙じいさんと一緒に宇宙人に立ち向かいます。

出るか！ モンチャクタイフーン！ 人間だっていいところはあつ！ 地球にやさしく大切にしないと宇宙のどこかで人間ゴリラ化計画が進行中かもしれませんよ。



「捨てられる魚たち」 榎木 春幸／著 講談社

みなさんは「もったいない」ということばを知っていますか。現在日本では、漁師さんのとった魚の3割ほどがそのまま捨てられています。見た目が悪かったり、漁港で決められた大きさではないという理由からです。そういった魚は「未利用魚」とよばれています。そんな捨てられてしまうもったいない魚と、鹿児島では厄介者でしかない火山灰を使い、苦勞の末においしい「灰干し弁当」を作った料理人の本があります。このような取り組みは「持続可能な開発目標（SDGs）」にも通じています。この本を読んで、私たちにできることを考えてみませんか。



「ねこもおでかけ」 朽木 祥／作 高橋 和枝／絵 講談社

小学生の信ちゃんは公園で子ねこを拾います。信ちゃんは子ねこをトラノスケと名づけて大切に育てます。やがて信ちゃんとトラノスケは心を通わせるようになりますが、トラノスケが外に遊びに出るようになると、不思議なことがおこります。外で信ちゃんと会ったトラノスケが、知らんぷりをして知らない家の庭に入ってしまったのです。信ちゃんは、友だちに相談したり、トラノスケのあとをつけたり、なぞをとくための行動を開始しますが…。

やさしい男の子とちょっと不思議な子ねこの、温かくてクスッと笑えるお話です。ぜひ読んでみてください。



「ほんとにともだち？」 如月 かずさ／作 高橋 和枝／絵 小峰書店

くまのまあくんは、おねえちゃんから「まあくんとたんくんはほんとにともだちなのか？」とたずねられます。たぬきのたんくんはともだちですが、いつもいっしょにいないし、たくさんおしゃべりもしません。まあくんは（ぼくとたんくんは、ほんとうはともだちじゃなかったのかもしれない…）と、かなしい気持ちになってしまいます。

気持ちは目に見えないから、しんぱいになることもあります。でも、ともだちでいるための決まりはないはずです。まあくんとたんくんのやりとりから、ことばは少ないけれど、ともだちを大切におもうあたたかい気持ちが伝わってきます。

中期：小学5年生～中学1年生



「アンナは犬のおばあちゃん」 吉田 桃子／著 こみ ひかるこ／装画 講談社

幼いころからチワワを飼うことが夢だったちひろは、小学6年生のある日、念願かなって犬と暮らせることになりました。しかしちひろのもとにやってきたのは、オオカミみたいな老犬「アンナ」でした。アンナは両親の恩師の犬でしたが、病気のため飼えなくなってしまったのです。一度意地を張ってしまうと、引っ込みがつかなくなってしまうちひろ。アンナのことが気になるのに、素直になれず友達や家族から孤立してしまいます。しかしそんなちひろを救ったのは、他ならぬアンナでした。アンナと共に過ごしていく中で、成長していくちひろの姿に心打たれる物語です。



「生き物たちが先生だ」 針山 孝彦／著 安齊 俊／画 くもん出版

生き物がもつしくみや生き方を学び、生き物を先生としてわたしたち人間の「ものづくり」にかそうという考え方を“バイオミメティクス”といいます。

ショウジョウバエの幼虫の体をヒントに発見した“ナノスーツ法”を使って、電子顕微鏡で生き物の体のしくみを生きたまま見られるようになりました。

ハスの葉はなぜいつもきれいなのか、ヤモリはなぜ天井にくっつくことができるのか。生き物たちの驚くべき能力を解き明かし、私たちの未来をひらくヒントを探ります。

疑問をもちつづけること、地球が抱える問題について考えることの大切さを学びます。



「給食が教えてくれたこと」 松丸 奨／著 くもん出版

みなさんは給食にルールがあることを知っていますか？ あらゆる栄養素の「取るべき目安の量」が細かく決められています。その量を超えても、不足してもいけません。そんな細かいルールを守りながら給食の献立を考えているのが学校栄養士です。

給食嫌いの少年がある栄養士との出会いを切っ掛けに、その道を志します。しかし実際に働いてみると、食べ残しやアレルギーへの対応など様々な課題にぶつかります。

みんなにおいしい給食を食べてもらいたいと、もがきながら奮闘している栄養士の物語です。



「小泉八雲と妖怪」 小泉 凡／著 玉川大学出版部

小泉八雲は『耳なし芳一』など日本の有名な怪談作品の作者です。もともとはギリシャで生まれ、45歳の時に小泉セツと結婚して日本人になりました。

八雲が妖怪に関心を持ったのは、幼い頃に乳母が多く怪談を語り聞かせたからでした。しかし当時の西洋は、キリスト教を信仰すること、科学的な思考を持つことなどが主流で、八雲はこれらの価値観に疑問を持っていました。また日本文化の自然と共存するところに感動し、怪談を日本がほこる文学として世界に紹介したいと考えました。

妖怪などの見えざるものから学び続けた八雲の人生をぜひのぞいてみてください。



「窓の向こう、その先に」 田村 理江／作 北見 葉胡／絵 岩崎書店

家の窓から電車を眺めるのが好きな穂乃果。いつのころからか窓越しに見ている穂乃果に、車窓からハンカチを振るおじいさんがいます。幸せな偶然から公園でおじいさんと出会った穂乃果は、穏やかで優しい口調のおじいさんと話をしていると、自分が自分らしくいられる事に気づきます。

おじいさんをきっかけに学校の人気者で憧れの乃愛と仲良くなった穂乃果は、乃愛の心の不安や悩みを知るようになります。明日の自分なら変えられるかもしれないという乃愛の言葉に勇気づけられた穂乃果。おじいさんと乃愛と過ごした時間で穂乃果の心はどう変わっていくのでしょうか？

応募規定：(1)小学生は400字詰め原稿用紙2枚以内、中学生は400字詰め原稿用紙3枚以内とします。
 (2) A4サイズの原稿用紙を使用してください。
 (3) 原稿用紙1枚目の1行目に学校名と学年、2行目に漢字氏名と「ふりがな」、3行目はあけて、4行目に本の題名を記入し、5行目から感想文を書き始めてください。
 (4) 対象学年にとらわれず、どの本でもよいです。1人2点まで可。

表彰等：(1)小学生の部及び中学生の部
 最優秀賞 各1名(賞状と図書カード5,000円分を贈呈)
 優秀賞 各1名(賞状と図書カード3,000円分を贈呈)
 佳作 若干名(賞状と図書カード1,000円分を贈呈)
 (2)表彰式 令和8年2月(予定)